令和４年度　江戸川区立松江第四中学校　学校関係者評価　中間評価用報告書

学校教育目標	よく考えて自らすすんで学ぶ 体験を通して豊かな心を育む 健康でたくましく生き抜く	目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	生徒の希望や夢を育む学校 よく学び　心ゆたかに　たくましく 授業改善に努め、学びを継続し、人権を尊重し、人間性を高められる教師
前年度までの学校経営上の成果と課題	＜成果＞ ３つの取組を推進　①タブレットを活用した個別最適な学習への取組が進んだ　②SDGs達成に向けた生徒会の取組　③授業力向上の研修を推進できた ＜課題＞ ３つの組織的取組　①不登校生徒への支援　②特別な支援を要する生徒への対応（個に応じた教育）　③校務分掌の整理と学校環境の整備		

教育委員会重点課題	取組項目	評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価 取組	成果 生徒	成果 保護者	成果と課題	学校関係者評価 評価	コメント	年度末に向けた改善策
いきいきと学ぶ学校づくり	確かな学力の向上	・「確かな学力向上推進プラン」の実施・改善や補習の実施などによる指導の充実と授業力の向上 ・「各教科等の連携教育プログラム」による連携の充実	・毎トレによる適度な課題と支援 ・松四タイムの効果的取組 ・放課後を活用した補習	・毎トレ提出率95%	A	A	C	○毎トレは毎朝担任が提出を促し、コメントを入れて返却している。相談や報告等コミュニケーションツールとして活用できている。 ▲学習習慣・学力向上のツールとして、eライブラリの活用を進める。	B	学習習慣の向上が大切。	家庭学習の向上のために別のt建て（学習コンテストなど）を実施。
			江戸川っ子　stdy　weekの取組	・家庭学習習慣の向上90%	C	C					
	読書科の更なる充実	・読書を通じた探究的な学習の充実 （読書科ノートの活用、資料の収集の仕方や記録の取り方の指導、自己の考えをまとめ表現する方法の指導、朝読書と1単位時間の授業との関連付け、他教科との関連等） ・学校図書館の整備、学校図書館を使った授業の充実	・SDGsを軸にした教科等横断的な取組 ・朝読書の充実 ・教科での図書館の活用	・学校図書館の活用で探究的な学習に取り組む（80%） ・卒業論文の作成（全生徒）	A	C	D	○読書活動は一人一台端末の活用も取り入れ、調べ学習や発表の際のプレゼン資料などに効果的に使用できている。 ▲課題はネットリテラシーの向上。学習用途外の利用による健康被害の防止。	C	読書による知識や疑似体験の深化を大切にしてほしい。	ESDカレンダーの見直しを通し、学校行事を「探究的な学習」へ進化させる。
	体力の向上	・体育の授業での補強運動や休み時間における主体的な運動の実施による運動意欲の向上	・単元の技能向上を意図した補助運動の実施	・運動の機会を増やし体力向上に取り組む（80%）	B	B	C	○外遊びが効果的に気分転換や運動習慣に寄与している。 ▲施設面や安全面を考慮し、すべての学級に提供できない。	C	教育課題推進のための取組を進めてほしい。	食育や睡眠に関する指導を進め、生活習慣の向上を図る。
		・すべての教育活動を通した生活習慣の改善	・外遊びや部活動を通した運動体験の機会向上		A						
			・睡眠に関する指導	睡眠時間の増加（80%）		C	C				
			・栄養バランスの指導	食への意識向上（90%）		B					
	オリパラ教育の推進	・「学校2020レガシー」の設定やオリパラ教育の発展	・パラスポーツ選手との交流と体験 ・教科・領域などにおけるオリパラ教育	パラスポーツに触れ、スポーツへの関心や生き方を考える機会をもつ（90%）	D	C	D	○オリパラ講演会を予定。９月に実施。 ▲一過性の行事にならないよう、教科と連携した計画的な活動にする。	C	生の体験の価値は大きい。	オリパラ講演会や体験を実施し、アスリートの生きざまを学ぶ。
	外国語教育の推進	・授業力の向上とALTの効果的な活用	・少人数を活かしたによるスピーキング力の向上 ・英語検定の受験率向上	・英語を使っての会話力の実感（80%）	A	B	D	○授業へ取り組む姿勢は積極的である。 ▲得点力に結び付いていない。	B	英語の必要性は日々高まっている。	得点力向上を見据え、eライブラリの活用や学習コンテストの実施。
				・英検受験者70名以上							
	健全育成に向けた取組の強化	・いじめ・不登校の未然防止に向けた魅力ある学校づくりの取組の充実 ・ネットリテラシーの指導 ・SSWや生活指導連絡協議会の活用	・いじめのおきにくい学級づくり ・QUの組織的活用	・いじめの未然防止、早期発見・早期指導による解消ができる組織的学校運 ⇒いじめ未解決0 ・安全安心な学級・学校（90%）	A	B	B	○校内委員会の組織的な対策をしていることで、早期発見につながっている。 ○グループ・エンカウンターに取り組むなど人間関係の構築を日頃より図っている学年において、生徒自治や行事を楽しみながら成功させようという姿勢が育っている。 ▲組織的計画的、かつ生徒の成長を支援する暖かい指導の継続 ▲生活指導の主は、SNSが要因となっている。	B	いじめで傷つく生徒を出してはならない。見守りをお願いします。	学年間の風通しを良くし、教員同士学び合う。 SNSに関する、繰り返し粘り強い生徒指導
			・校内委員会での情報共有と迅速な対応 ・関係諸機関との積極連携		B	A					
			・東京SNSルールを活用した家庭ルールの指導	インターネット・SNSを正しく安全に指導する。	A	B	C				
	生徒会自治の向上	・専門委員会・中央委員会の指導を通した生徒自治力の向上	・主体的に所属集団を向上させる意欲・態度の育成	・生徒会活動が学校生活の向上につながっている（80%）	A	A	B	○生徒会活動が生活向上に貢献し、またリーダーの育成につながっている。 ▲全生徒参に所属意識をもたせること。	B	生徒の活躍の場の設定は大切。	生徒への参加機会と活動の充実を図る。
特別支援教育の充実	特別支援教育の推進	・校内委員会の活性化を図ることなどによる指導・支援の充実 ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の充実	・SC，巡回心理士の情報共有と組織的支援 ・保護者との関係づくりと機関諸機関との連携 ・エンカレッジルーム、相談室の活用	・生徒・保護者の悩みが、教師やSCなどとの相談や面談、エンカレッジルームの活用によって縮減・解消できる（80%）	A	B	C	○年度初めの保護者会で各学年コーディネーターからの講話と「特別支援教育だより」配付。四中における特別支援教育及び校内体制についての周知ができた。次年度以降も継続して発行し、より多くの保護者の理解を得る。 ▲教室環境の整備	B	充分な支援をお願いします。	最適な支援が提供できるよう、外部機関や専門家との連携を継続させる。
	不登校支援	・不登校支援委員会の充実 ・オンライン面接、授業配信の実施	・学校とのつながりを絶やさない ・タブレットの活用も	・新規0、引きこもり0 ・不登校生徒3%	A			○タブレットを活用し生徒と連絡をとることも増えてきた。 ○SSW、SCの校内委員会への参加。多角的な視点での生徒情報共有と支援方法の検討ができた。 ○QUに関する校内研修会を実施。	B	家庭環境もあり難しい問題であるが、引き続き対応を。	学校とのつながりを切らさないよう、短時間・別室の投稿を推奨する。
教員の資質向上	教員研修の充実	・学習用タブレットを活用した授業実施に向けた研修	・デジタル教科書・学習アプリ活用、タブレットの日の設定	・全教科がタブレットを使ったわかりやすい授業80%	B	B	C	○研修やICT支援員による活用場面の拡大 ▲学習場面での効果的な使用法の拡大	B	時代の変化	生徒が使用する場面を増やせるよう工夫する。
	授業力向上	・小グループによる対話的な授業 ・知識がつながり「わかった」「おもしろい」と思える授業 ・授業の内容を可視化 ・授業の相互公開	・全教員の研究授業実施 ・市松模様四人組学習 ・「本時の目標」「まとめ」の表示 ・校内OJT（組織的人材育成）	・教科・読書科・総合的な学習の時間などのつながりによる深い学び（80%）	A	A	B	○４人組学習の浸透による話し合い活動の向上が見られる。 ▲時間的な制約が課題。また、校内OJTの組織的な取り組みを促進することも課題。	A	いろいろと工夫されている。	授業力向上月間（全教職員の研究授業）を実施し、相互の授業参観。
		ESDカレンダー作成・見直しによる教科等横断的な取組と探究的な学習の取組	・教科等横断的な指導の実践 ・主体的に学習に取り組む態度の育成		D						
	人権感覚と人権意識の育成	・教師自身の言語環境の向上 ・LGBTへの理解と支援 ・差別や偏見のない環境づくり	・生徒の人権を大切にした言動	・生徒の人権を尊重（95%）	A	A	A	○SDGsにも関連付けて、人権感覚を養っている。 ▲言語活動の再度見直し、多様性の尊重を。	A	人権教育に尽力されている。	授業力向上月間（全教職員の研究授業）を実施し、相互の授業参観。
			・制服の選択制 ・全教科・教材を通しての多様な生き方・考え方の理解	・多様な生き方を知り、尊重することができる（90%）	A	A	B				
特色ある教育の展開	SDGsに取り組む学校	・各教科等におけるSDGsの取組 ・特別活動・行事におけるSDGs ・生徒会活動によるSDGS	・教科などにおけるSDGs達成に向けた実践	・SDGs達成に向けて行動している（90%）	A	B	C	○総合的な学習の時間のメインテーマの1つにSDGsを取り入れ、学年ごとにSDGsについて考える時間を作っている。 ▲探究的な学習の実施	B	世の中の動きであり区の施策であり重要。	研修を重ねながら、ローテーション道徳を継続させる。
	道徳教育の充実	・考え議論（対話）する授業により、多様な意見を受け止め、自身の価値観を高める。	・ローテーション道徳 ・発言しやすい学級づくり ・教材開発	・積極的な対話を通し、自身や他者とのかかわりについて深く考える。（80%）	A	A	B	○ローテーション道徳の取組による他教員の授業観察が指導力向上につながった。 ▲教材研究により、適切な中心発問の設定や工夫を行う。	B		
	保護者・地域との連携	・保護者・地域との交流 ・ボランティア活動への積極的な取組 ・ホームページの充実	・開かれた学校を意識した情報提供と公開 ・地域の活動への参加促進	・学校のことが家庭で話題にあがる。 ・学校のことがよくわかる。（80%）	B	B	B	○工夫をしながらの公開を実施している。 ホームページの更新を進めている。 ▲担当教員の協力による更なる更新。	B	コロナ禍で致し方ないが、生徒の活動の保障を。	11月の地域防災訓練や清掃活動などに参加。